

## 遊 星 界 (11月)

晩秋の宵空をかざるもの——金星、木星、土星、暁には火星。今年中で最もよく俳優がそろつたといへる。例によつて、次に簡単な解説。

**水星** 目の廻るやうないそがしい星である。今月の観望は全くダメ。18日に外合の位置に来るからである。その前は太陽の西、その後は太陽の東で、とにかく太陽とあまりに仲好である。乙女、天秤、蝸、蛇遣と黄道にそひ東し、12月にはまた宵に見えるやうになる。

**金星** 9月頃からもう「宵の明星」になりつつあつたが、太陽からは益々はなれ、光度も増し、木星をしのぐ「一番星」としての威力を示す。光度負3.5等。實に美事である。位置は蛇遣座の南の方から射手座に入る。17日には細い月と接近する。蓋し、絶景であらう。

**火星** 暁の星であるが、太陽とはなれつつあるから、段々早く東天にあらはれるやうになる。光度1.8等。表面のスケツチをはじめてもいい時期に入つた。位置は乙女座の秋分點近く、観測者は春の星座を見る特權を持つものである。

**木星** いまは急いで太陽に近づいてゐる。12月にはもう見にくくなる。観望を怠つてはならない。光度も降つて負1.4等。夏の頃の元氣さはない。位置は射手座の西端。13日には金星と接近する。宵の西空に一番星と二番星とが握手せんとするのである。それから兩星は位置を轉じ、木星が金星よりも西になる。又、17日には月と接近する。三日月であるからよくわかるであらう。

**土星** 宵の空、水瓶座に殆んど動かない。光度1.1等。観望には絶好期である。木星を早く西天におくつて、注意は土星に集中。年末には再び輪が見えなくなるが、今は直線状のものが見える。

**天王星** 宵の星、位置は羊座。光度6.1等。終夜の観望に適す。いくら上等でも肉眼ではダメか？

**海王星** 暁の星。獅子座の東部。夜半後東に上る。光度7.8等。

**冥王星** 蟹座の西端にあり、光度15等級。